

スタイルガイド類によるアーカイブ資料の参照・引用記載方法

五島敏芳¹, 戸田健太郎¹

1 京都大学総合博物館 (連絡先) 五島 h.gotoh@inet.museum.kyoto-u.ac.jp

アーカイブ資料の参照・引用の難しさ

- 本や学術雑誌の記事・論文の出典記載の要素を基準にすると欠如する情報あり：著者不明、タイトル不明、作成～公刊日付不明...
- 資料の単位や階層関係を理解しづらく、アーカイブズ機関により検索手段やそれによる単位の特定が多様
↓
ページに対応する位置の特定手段は、検索手段（資料目録）[の資料番号]しだい
- ▶ 本や論文等と同じ出典記載方式は難しい

普及しているスタイルガイド類へのアーカイブ資料の出現

- 1960年代末～1970年代に、新しい参照対象として明確化...手稿から公文書や未公刊資料全般へ、または録音や映像といった新媒体資料へ、と拡大
- 米国立公文書館ガイドの影響もある

実際の記載の様相は？

- 必須記載要素
- 注記等：
(個別資料の)タイトル(あれば)と日付、(資料の)識別記号、コレクション名、収蔵者とその所在地。
- 文献目録等：
コレクション名とコレクション番号、収蔵者とその所在地。[記録群番号。]
- * CMOSやMLAじたいの変化からも影響...煩雑記載の簡略化の傾向あり

まとめ（展望、課題）

- 出典記載は、参考・引用する資料へアクセスのためにあり、ガイドの示すスタイルはその理解の表現的補助...要素や順序は硬直的ではない
- ▶ アーカイブ資料ではそのアksesに必要な情報を示せばよい（可能な範囲で）
- ▶ 各アーカイブズ機関は、アksesのための情報（出典記載の方法）を提示...資料利用者を誘導すべき
- × 日本ではこの認識が不足?...

